

令和8年度 全国学力・学習状況調査 結果分析

我孫子市立根戸小学校

＜教科に関する調査結果より＞

調査した教科（国語・算数）において全国及び県平均の正答率を上回っている。また、各教科の全ての領域で全国及び県平均を上回っており、良好な結果であった。

【国語】

全ての項目（領域・問題形式）において、全国及び県の平均正答率を上回っている。これは、子どもたちが文章の内容を正確に捉えるとともに、設問の意図や求められている内容を理解し、適切に解答する力を身に付けていることの表れと考えられる。

これまで、要点を捉えて話したり聞いたりする活動や、説明文・物語文の内容を正確に読み取る学習、相手意識や目的意識を明確にした作文指導などを積み重ねてきたことが、今回の結果につながっていると考えられる。また、文章の叙述を根拠に考えたり、自分の考えを相手に分かりやすく伝えたりする学習を継続してきたことも、成果の一つとして捉えられる。

今後は、これまで培ってきた読む力・書く力・伝え合う力をさらに伸ばすとともに、情報を多面的に捉え、目的や状況に応じて必要な情報を取捨選択し、自分の考えを形成する力を育成していく必要がある。特に、将来的な生成 AI の活用も見据え、相手や目的に応じて必要な情報を整理し、意図が明確に伝わるように言葉で表現する力を育てることが重要である。こうした力は、生成 AI への適切な指示（プロンプト）を考える力にもつながる。そのため、文章の叙述を根拠に考えを深める学習や、複数の情報を比較・検討し、目的に応じて表現を工夫する学習を充実させ、確かな言語能力の育成を図っていきたい。

【算数】

全ての項目（領域・問題形式）において、全国及び県の平均正答率を上回っている。領域別に見ると、「数と計算」「図形」「データの活用」では全国及び県の平均正答率を大きく上回っている。一方、「測定」「変化と関係」では、これらの領域に比べて全国及び県との差が小さいことから、今後、より一層の指導の充実を図る必要がある。

「測定」では、量の概念や測定の原理・方法への理解を深め、量感を身に付けることが重要である。そのため、低学年のうちから、実際に測ったり、比べたり、見積もったりする体験的な学習を意図的に取り入れ、具体的な経験を通して量の概念を形成し、量感を豊かにしていく必要がある。中学年では、普遍単位（cm, kg など）を用いる必要性やそのよさに気付く、単位の間隔を関連付けて捉えられるようにすることが大切である。さらに、高学年では、これまでに学習した量の概念や単位の間隔についての理解を深め、目的に応じて「何に着目し、どの単位を使えば、量を的確に伝えられるか」を考え、説明する授業を展開していく必要がある。

「変化と関係」では、伴って変わる二つの数量の間隔や、数量の間隔を表す式・図・表・グラフなどについて理解を深め、数量の間隔に着目して問題を解決する力を育成することが重要である。そのため、低学年では、身の回りの事象から数量を見だし、

具体物を用いた操作や観察を通して、数量の変化や対応の関係に気付くことができるようにする必要がある。中学年では、伴って変わる二つの数量の関係を表や式などに表し、変化や対応の特徴を捉えるとともに、それぞれの表現を関連付けて考える学習を進めていくことが大切である。さらに、高学年では、比例や割合などの学習を通して、二つの数量の関係を多面的に捉え、目的に応じて表・式・グラフなどを活用しながら、数量の関係を的確に判断・表現する力を育成していく必要がある。公式や計算方法を覚えるだけでなく、数量の関係を図や表に整理し、変化や対応の特徴を見いだすとともに、その根拠を説明する授業を展開していきたい。

以上のように、算数科では、これまでに身に付けてきた知識・技能を確実に活用できるようにするとともに、具体的な事象から数量の関係を見だし、数学的な表現を用いて考察し、その根拠を説明する学習を充実させていく。こうした学習を系統的に積み重ねることで、日常生活の問題解決にも生かせる数学的な思考力、判断力、表現力等の育成を図っていきたい。

<児童に対する質問紙調査結果に見られる特徴と現状>

【児童質問紙】

「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時間に起きていますか」「毎日、同じくらいの時間に寝ていますか」など、家庭での生活・学習習慣に関する質問では、全国及び県の平均を上回る良好な結果が見られた。このことから、基本的な生活習慣や家庭学習の習慣が定着している傾向がうかがえる。また、「あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか」の質問では、全国及び県の平均を大きく上回っている。このことから、子どもたちが互いの考えを尊重し、安心して自分の意見を表現できる学級風土が育まれていると考えられる。今後も、互いのよさや違いを認め合う活動を大切にし、子どもたちが自信をもって学習や様々な教育活動に参加できるよう支援していきたい。

一方、「将来の夢や目標を持っていますか」の質問では、全国及び県の平均を下回っている。今後は、キャリア教育の充実を図り、日々の学習や様々な体験活動を通して、自分の興味・関心やよさ、可能性に気づき、将来の生き方や夢、目標について考える機会を充実させていきたい。

【保護者の方へ】

今回の調査結果から、国語・算数ともに全国及び県の平均正答率を上回り、子どもたちがこれまでの学習を通して着実に力を身に付けていることがうかがえました。また、基本的な生活習慣や家庭学習の習慣が定着している傾向にあることや、互いの考えを尊重し、安心して自分の意見を表現できる学級風土が育まれていることも、本校の強みとして捉えています。日頃からのご家庭でのご支援とご協力に感謝申し上げます。

一方で、算数科では、量感を養い、数量の関係を多面的に捉えて考察する力をさらに伸ばしていく必要があります。また、児童質問紙では、将来の夢や目標を持つことについて、全国及び県の平均を下回る結果となりました。今後は、各教科の授業改善を進め、根拠をもって考え、自分の言葉で表現する力を育成するとともに、日々の学習や様々な体験活動を通して、子どもたちが自分のよさや可能性に気づき、将来の生き方や夢、目標について考える機会を充実させていきます。

ご家庭におかれましても、引き続き規則正しい生活や家庭学習の習慣を大切にしていただくとともに、学校での学習や体験を話題にし、お子さまの興味・関心や将来の夢について話し合う機会を設けていただければ幸いです。

今後も、今回の調査結果をこれまでの教育活動を振り返る手掛かりとし、校内研修や授業研究を通して教員の指導力向上を図りながら、子どもたち一人一人の資質・能力を伸ばす教育活動に取り組んでまいります。学校と家庭が連携し、子どもたちの健やかな成長を支えていけるよう、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

